



平成30年 3 月 2 日
第 25 号



『ご挨拶』

早春とは言え、当地方ではまだ春が遠く感じられますが、同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。平素より同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。長きに渡り会長としてご尽力いただきました熊谷前会長に替わり、同窓会会長を務めさせていただきます。これから早一年が過ぎようとしております。微力ながら今後とも地に足をつけ、母校の発展と同窓生の皆様のために寄与できるよう精進して参りたいと存じます。去る一月十八日、赤坂校長先生が急逝されました。突然の訃報に驚きを隠しきれません。

附属中学校の開校を御覧になることなく亡くなられた先生は、どんなに無念であろうと思えます。私達同窓生は今後繋がりを一層深め、二高の明るい未来を後押しして参りたいと存じます。母校のために尽くしてくださった赤坂校長先生に心から感謝申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。改めてではございますが、今春ご卒業される同窓生の皆様、心よりお祝い申し上げます。

社経営者の立場につくと叱つていただける方が少なくなつたことに何故か寂しささえ感じます。今思えば、親は叱つたり注意したりする権利ではなく義務を、子供はその義務ではなく権利を有していたのではと感じます。職場でも見込のある者に注意喚起を促す方が教え甲斐があり、その数が多いほど成長するものです。これから皆さんには、欠点やミスを指摘してもらえらることはありがたいことだと思ふ機会がきっとあるはずですよ。

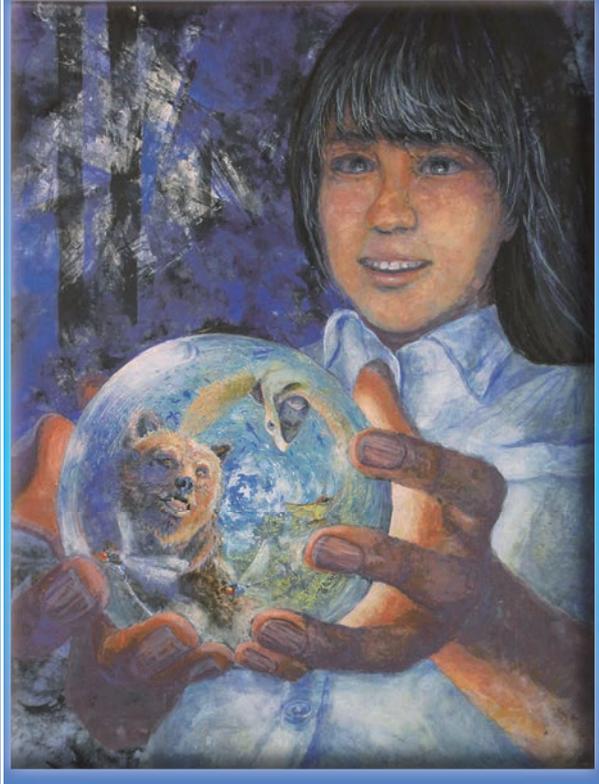
ビジネスの世界でも、成功の裏には限らない失敗の積み重ねがあります。それを恐れて何もしない人生に成功は存在しませぬ。発明王エジソンは、成功の秘訣を聞かれたときに「私はどうやれば失敗するかを他の誰よりも知っているから」と答えました。数々の偉業は、一%のひらめきと九%の汗(努力)の成果なのでしょう。卒業生の皆様には、今後も叱られる権利を上手に使い、アドバイスをくだける人を大事にし、その教訓を糧に成功者になることを期待申し上げます。失敗を恐れずに、悔いのない人生を歩んでいただきたいと存じます。

私の職場で以前故・赤坂校長先生にご講演を依頼したことがございましたが、その中で賜つたのも、叱る(叱られる)大切さのお話でした。そのことを一言申し添えておきたいと思ひます。

卒業生の皆様、同窓会入会に歓迎と感謝を表し、今後も前途洋々たることをお祈り申し上げます、挨拶

第38回青森県高等学校総合文化祭
美術部門「最優秀賞」受賞

作品名 「未知」 日本画/F50



昨年10月27日、八戸市で開催された第38回青森県高校総合文化祭美術部門において、美術コース二年の加賀明日花さんが最優秀賞、同コース二年の小山内柚月さんが優良賞を受賞しました。加賀さんは県から七人が選ばれる全国大会出品者に選ばれました。審査員からは、「生命の神秘に満ちた球体に眼がひきこまれ、未知の世界を見る人物の感動が伝わって来る。フレッシュなテーマを伝統的技法の日本画で描いた力作である。」と評価されました。本校の最優秀賞は二年連続、全国大会選出は10年連続となります。また、加賀さんは県高総文のポスター原画においても最優秀賞を受賞し、大会ポスターとして採用されました。スローガンを活かしたインパクトの強いデザインで、各部門から好評を得ていました。

〔加賀さんの感想〕

高総文の作品は、授業で学び興味を持った日本画で制作しましたが、慣れない画材で描くことは苦しかったです。しかし、やるからには絶対に良い作品にすると決意し、諦めず絵と向き合い続けた結果、伝えたいことが全面に表現でき、誇れる絵になったと思います。自分の制作意図を審査員に受け取っていた感激しています。制作した2カ月間は毎日苦悩の連続でしたが、学んだことも多く、忘れられないとても貴重な経験ができました。

八戸工業大学第二高等学校附属中学校 平成30年4月6日 開校

今年の4月に八戸工業大学第二高等学校附属中学校が開校いたします。そこで、附属中学校での教育方針や内容について紹介します。

開校の目的

そもそも工大二高は、大学等への進路志望達成を一層推進するために1975年、八戸電波工業高等学校普通科を分離独立させて誕生した高校です。今ではその後の進路実績により、県内私立高校の中でも揺るぎない地位を占めています。

しかし、グローバル化・情報化・多様化などが急速に進んでいる21世紀の社会を担わざるをえない生徒にとって、知識や技能だけでなく未知の

課題に対応できる思考力・判断力・表現力を磨き、この時代を主体的に生き抜く力を身に付けなければなりません。そのためにも、どうしても連続した中高6年間教育の中で長い時間をかけて丁寧な教育しながら、生徒の生きる力を伸ばし難関大学などの進路志望を達成していく必要があると判断し、ここに附属中学校を開校することになりました。

教育方針

附属中学校は、「たくましい心と創造性にあふれ、高い知性と協調性をもち、我が国や社会のリーダーとして世界に貢献できる人材を育成すること」を教育方針に掲げています。進学重視型の中高一貫校ですので、



国・社・数・理・英の5教科学習に力を注ぐことは勿論ですが、全人教育の視点から「サイエンス・グローバル・ヒューマン」をキーワードに据えて、アクティブラーニングなどの手法も取り入れな



がら、「主体的・対話的で深い学び」を追究します。将来を予測することが困難な社会で生きなければならぬ生徒たちに、併設型中高一貫教育を提

供することにより、生きる力や学び続ける姿勢を身に付けさせます。募集人員は男女合わせて60名です。

教育内容

中学・高校の6年間を2年ずつ基礎・充実・発展の3つのステージに分けて、進路志望の達成に向けた教育活動を推進します。具体的には、①

豊富な授業時間(公立中比30%程度増、土曜授業)②高校授業の先取り(中3途中から高校の学習へ)③高2で教科書終了(高3時は総復習と受験対策)④サイエンス教育・グローバル教育・

ヒューマン教育と名付けた学外学習等の特色ある教育の実施⑤電子黒板等のICT教育の充実などです。

二高教員がこれまでに培ってきた学習指導や生徒指導上の教育力を基に、生活習慣・学習習慣の確立や奉仕活動等を推進します。また、隣接する八戸工業大学の施設設備の利用や大学教員の協力による「中・高・大連携教育」を一層進めて体系的な教育を行います。

そして、生徒一人ひとりを大切にす個別指導も充実させながら、人間としての成長を支援していきます。

開校に向けての準備

昨年7月と12月に青森県私立学校審議会が開催されて計画書と申請書が審査されました。その結

果、2月の現地調査を経て3月に県知事から認可される運びとなっております。

校内ではこれに先駆け、昨年4月に教頭先生をキャップに11名の教員で構成される「中学校開設準備室」を発足させ、「募集」「施設設備」「教育組織・内容」「入学検査」「研修関係」の5分野ごとに作業を進めてきました。新しく校舎や教室を建築・増設する必要はなかったものの、募集活動が実質3ヶ月程度しかなく地域の小学生に開校を周知させる時間が不足気味であったり、教科のシラバス作成や教育全般のプログラム作成に思

いのほか時間を取られるなど困難な事もありましたが、ほぼ予定通りに作業は進捗しています。今後は、4月6日(金)に附属中学校の開校式が挙行され、式後、中高合同の

学校側より 同窓会の皆様へ

入学式が行われることになっていきます。

八戸工大二高附属中学校は、進学重視型の中高一貫教育を行いますので、同窓会の皆様の中には「中学校だけを重視するのでは」と危惧される方がいらっしゃるかも知れません。でも、ご安心ください。あくまでも母体は高校(二高)です。附属中学校の生徒も高校入試を経た生徒も、同じ二高生として指導して参ります。

二高・附属中学校は、今後も本法人の建学の精神である『正己以格物』(己を正し以て物に格る)に基づいて、社会や時代の要請にこたえることを視野に入れながら、創造的で個性的な考え方をもち、人材の養成に努めてまいります。同窓会の皆様、二高・附属中学校に対しまして、今後ともより一層の暖かいご協力・ご支援をお願いいたします。

↑写真は9月30日に行われたプレテストの様子。
二高附属中学校について詳しくは二高ホームページをご覧ください。
www.kodai2-h.ed.jp



赤坂寿校長先生の 死を悼む

本校校長の赤坂寿先生が、平成30年1月18日に急逝なされました。心よりご冥福をお祈りするとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

赤坂先生は、昭和54年に県立大間高校へ赴任され、以後、教諭として八戸高校、八戸商業高校に勤務されました。

平成13年からは県学校教育センター、県教育庁において指導主事として、平成19年からは北斗高校、八戸中央高校、八戸北高校において教頭として勤務されました。

平成23年からは三本木高校、さらに八戸高校に校長として勤務され、地域の中心である各高校の活性化に力を発揮されました。

平成28年からは学校法人八戸工業大学に活動の場を移され、教育指導監として法人傘下各校の教育活動の充実に力を注がれました。

平成29年4月には、八戸工業大学第二高等学校の第6代校長として着任されました。本校の教育活動の強化は勿論のこと、附属中学校開校に向けて諸業務を統括し、先頭に立ち開校への道程を進んでおられました。

赤坂先生は「東北の私学のなかで、二高を一番の進学校にする」との目標を語っておられました。先生の遺志を引き継ぎ、その目標に向かって進んでいかなければなりません。今までと同様、同窓生の皆様のご支援をお願い致します。



平成30年度 同窓会新幹事決定

（関東地区幹事）

- 一組 鈴木 拓実
- 二組 田中 惇貴
- 三組 吉田 留惟
- 四組 蹴揚 泰樹
- 五組 宮田 康太郎
- 六組 工藤 綾華
- 七組 山口 響
- 山本 菜央

（仙台地区幹事）

- 一組 なし
- 二組 岩本 行平
- 三組 笹原 瑠斗
- 四組 佐藤 連
- 五組 山道 楽々
- 六組 小泉 朱世
- 七組 杉本 遥奈
- 白川 志乃
- 木村 琴音
- 西山 裕華

（八戸地区幹事）

- 一組 羽賀 新
- 中里 賢太
- 二組 橋本 妃菜子
- 三組 神山 雄大
- 北山 夏生
- 四組 田名部 勇成
- 下館 愛璃
- 五組 木村 舜
- 古舘 涼太
- 六組 金入 慎太郎
- 七組 向田 瑠奈
- 木村 尚紀

来年の新幹事が決定するまでの一年間、宜しくお願いします。

☆☆会員からの メール☆☆

◎藤崎（笹本）真貴子（8回生）

孫が4人に増え、さらに親の介護と、なかなか忙しい日々です！

◎山口 嘉久（12回生）

念願の東京マラソンに参加。無事に完走を果たしました。

◎植山 正樹（23回生）

単身赴任が続いていますが、しつかりと仕事を続けています。陸上自衛隊

◎本間（高谷）紘永（23回生）

元気に子育て頑張っています。

◎岩織 博美（25回生）

主人と共働きしながら2人の息子たちの子育て奮闘中！

◎中鶴間 萌（41回生）

演技演習や座学など忙しいですが、充実した毎日を送っています。

◎五戸 唯良（41回生）

寮生活もだんだんと慣れてきました。大学生活も頑張っています。

◎川崎 竜二（42回生）

覚えることが多々ありますが、精一杯頑張っています。

第42期定例幹事会 総会開催

平成29年3月20日午後6時より八戸パークホテルにおいて、「第42期八戸工業大学第二高等学校同窓会総会」が開催されました。

熊谷雄一会長の挨拶の後に議題の審議が行われました。

第一号議案

「第41期平成28年度活動報告及び会計報告」

会計報告の前に柄本監事より会計監査報告があった。審議の結果、全会一致で承認される。

第二号議案

「第42期平成29年度活動計画及び会計計画」

審議の結果、全会一致で承認される。

第三号議案

「役員改選の件」

住吉事務局長より事務局案が提出され主旨説明があった。

審議の結果、熊谷雄一氏が顧問、岩淵義昭氏が会長として全会一致で承認される。

引き続き、新会長から新役員紹介があり、全て承認された。役員は次の通り。（☆は新任若しくは昇格）

(1)顧問 ☆熊谷 雄一（6回生）

(2)会長 ☆岩淵 義昭（4回生）

(3)副会長

- 石塚 利孝（3回生）
- ☆杉本 佳子（5回生）
- 青池 俊司（15回生）
- 小山 真央（7回生）
- 小野 善一（4回生）

関東支部長 八戸支部長 田中 洋（19回生）

(4)常任理事

小出 敏夫（3回生）

杉本 雅昭（5回生）

稲葉 嘉浩（6回生）

福士 修（7回生）

下山 順之（12回生）

佐藤 勝也（12回生）

村井 京太（15回生）

田村 史之（15回生）

梶浦 昌之（22回生）

福井 智久（23回生）

谷崎日出紀（24回生）

(5)監事 柄本 俊一（14回生）

(6)事務局長 ☆千葉 三代（19回生）

(7)事務次長 ☆住吉砂津貴（6回生）

(8)相談役 ☆越後喜代志（25回生）

主な行事予定

第43期定例幹事会総会 平成30年3月10日（土） 18時〜

八戸パークホテル

第41回同窓会 関東支部総会 平成30年6月23日（土） 18時開会

お茶の水ホテルジュラク（東京都千代田区）

電話（〇三三） 三二五一一七二二二 会費 二千元

第20回同窓会 仙台支部総会 平成30年6月9日（土） 18時開会

千の庭（仙台市青葉区中央三一六一）ヤマダ電機（L A B I）八階）

電話（〇二二） 七三八・八五二三 会費 二千元

第43回同窓会 納涼パーティー 平成30年8月11日（土） 18時開会

八戸パークホテル（八戸市吹上）

電話（〇一七八） 十五一九七 電話（〇一七八） 四三一一一一 会費 二千元

皆様、お誘い合わせの上、是非ともご参加ください。

二高教員へインタビュー

角先生・酒井先生へ

◎今年度で還暦を迎えられた二人の先生にお話を伺いました。

☆まずは、角弘幸先生からのお話です。



(これまでの教員生活を振り返っての思い出を聞かせてください。)

八戸工業大学第二高等学校に赴任してきたのは、昭和五十七年四月、以来転勤することもなく二高一筋三十六年間の教員生活でした。本八戸駅に降り立ち、駅前のごちんまりとした風景に軽いショックを受け、タクシーに乗り砂塵舞う湊高台の原野(現在では閑静な住宅地)をひたすら進み、こんなところに学校があるのかと不安になったことを昨日のように思い出します。

青森市の実家に帰省した際、中学生の息子をもつ叔父がこんなことを言いました。「八戸の子どもはいいな。公立高校を落ちても二高があるから救われる。」いまから思うと叔父の何気ない一言が、私をここに引き留めたのかも知れません。

日々の悪戦苦闘の中で、二高を公立以上の学校にしたい。公立に落ちたら負けという官尊民卑の教育風土を変えたいという信念で仕事をしました。

苦労は多かったが私学の教員でよかったと思うことがあります。それは「自分たちの学校をつくる」という学校づくりが体感できたこと。魅力ある学校であれば生徒は集まり、そうでなければ生徒はこない。きびしい現実ではあるが、これが私学の醍醐味です。この数

年です。入学してくる生徒達の表情が明るくなったと感じています。本校専願者も百名を超え、入学者の半数にまで増加しました。来年度は念願であった附属中学校が開校する予定です。

(二高OB・OGの皆さんに向けてメッセージをお願いします。)

低い丘に建つ校舎に向かう通学路に沿って、ヒマラヤ杉が植えてありました。私が赴任してきた頃は少し見上げるほどの樹高でした。それが三十年余りで三階建ての校舎をしのぐまでに成長しました。風雨から校舎を守ってきた樹木でしたが、落枝倒木の危険性から三年前に伐採しました。一年後、そこにミズキ科の紅葉マボウシを植樹しました。初夏の頃に薄紅色の可愛らしい花を咲かせます。時代が老木から若木へと移ろうように、夢もまた受け継がれます。

私の教員生活はここで節目となりますが、丘に咲くミズキの成長とともに、教育というたくさん

の美しい花を咲かせて子供達を幸せにする学校であってほしいと願っています。

☆次に、酒井清則先生からのお話です。



(これまでの教員生活を振り返っての思い出を聞かせてください。)

二高にお世話になったのが、昭和58年4月のことでした。一学年の副担任でした。入学式に歩を進める新入生と保護者の皆さんの表情の暗さ。

「入学するときは悲しくとも、卒業するときは絶対笑顔で校門を送り出してやるぞ」と、心に誓ったのでした。

35年が経とうとしていますが、振り返れば、私自身の未熟さが原因で、どれだけ多くの生徒と保護者の皆さんにご迷惑をかけたことか。そしてどれだけ多くの皆さんから多くのことを教えられ、勇気と希望を頂いてきたことか。卒業生を送り出す度に頂いてきた、彼らからの謝辞が一番の思い出です。

(二高OB・OGの皆さんに向けてメッセージをお願いします。)

お願致します。)

二高の卒業生はずでに一人一人を優に超えました。各界で活躍する皆さんのニュースを耳にする度に、在校生に自慢げにお話をする自分が常になりました。在校生にとっても私たち教員にとっても、皆さんの活躍が素晴らしい刺激になります。

新年度には附属中学校が開校し、二高は更に新たな一歩を踏み出します。卒業生の皆さんがこれまで以上に胸を張って、二高のOB・OGであることを言える学校にしていく気持ちでおります。今後とも二高を力強く応援してください。よろしくお願いします。

結婚しました

○加藤(嘉瀬) 喜弥さん (25回生)

○高山(高山) 祐香さん (34回生)

○古賀 浩平さん (35回生)

○奈川(奈藤) 江莉加さん (35回生)

おめでとうございます。結婚披露宴の日時を連絡頂きますと本部事務局より祝電を差し上げますのでご連絡下さい。ホームページアドレス <http://www.kodai2-ob.com/>

「二高で過ごした三年間」

古川 剛己

私は二高に入学したとき、高校受験に失敗した悔しさから、勉強と部活動を両立し、自分の進路達成に向けて頑張ろうと心に決め、野球部に所属しました。私は副主将としてチームをまとめる立場にありましたが、なかなか上手くまとまりませんでした。そんな時、同じ学年の仲間が、主将・副主将だけでなく、全員でチームを引っ張ってくれていた。頼りない副主将でしたが、こんな自分についてきてくれた後輩、手をさしのべてくれた仲間

卒業生からの声

中山 友理

「将来に向けて」

重みと輝かしさを持ち、人生の礎となったに違いありません。また、この三年間で学んだことは、社会の一員として責任を持つことや、仕事に就いて生きることの大切さです。人を助けたり、何かを成就するには、まず自分がしっかりとして生きなければいけません。日々の体験を通してそれを学びました。

「将来に向けて」 高校三年間を振り返って私は、これと言って特別なことはしていません。生徒会や部活動を熱心に行っていたとはいえず、美術コースでのボランティアには参加しましたが、自主的な活動はしていませんでした。活発に学校生活を送ったとは言えないうちの一人です。しかし私は、他の人が部活動で汗を流している時間に、椅子に張りついて作品と向き合い、じつりと濃密な三年間を味わったと感じています。この時間は、活発な生活を送った人と同じくらい

先生方、仲間の皆さん、今まで本当にありがとうございました。絵を描いて家庭を築くことを一先ずの目標として、二高で過ごした日々を忘れずに、大学でも頑張りま

二高の一年

〔3月〕二日に卒業した42回生の進路報告をいたします。北見工業大学、室蘭工業大学、北海道教育大学旭川校、北海道教育大学札幌校、公立ほこだて未来大学、弘前大学2名、青森県立保健大学2名、青森公立大学2名、岩手大学5名、岩手県立大学、秋田大学2名、秋田公立美術大学3名、山形大学、福島大学、会津大学、筑波大学、高崎経済大学2名、群馬県立女子大学、東京学芸大学、首都大学東京、神奈川県立保健福祉大学、長岡造形大学、以上の国公立大学で37名合格を果たしました。国公立短大では、岩手県立宮古短大2名、山形県立米沢女子短大2名、以上の4名が合格しました。また私立大学では、札幌大学2名、札幌学院大学、酪農学園大学、北海道医療大学、青森大学3名、青森中央学院大学2名、東北女子大学2名、八戸学院大学10名、八戸工業大学34名、岩手医科大学7名、盛岡大学3名、東北医科薬科大学、東北学院大学4名、仙台大学2名、宮城学院女子大学6名、仙台白百合女子大学3名、東北福祉大学4名、東北文化学園大学3名、東北工業大学1

名、日本赤十字秋田看護大学、東北芸術工科大学、白鷺大学、文教大学2名、日本医療科学大学、千葉科学大学3名、千葉工業大学、国際医療福祉大学、帝京大学2名、武蔵野大学、立正大学2名、専修大学2名、獨協大学、北里大学、杏林大学3名、東京工科大学、駒澤大学、法政大学、日本大学3名、東洋大学3名、大東文化大学2名、大正大学、工学院大学2名、東京農業大学2名、東京工芸大学、武蔵野美術大学3名、東京造形大学3名、明星大学、目白大学、和光大学、多摩美術大学2名、昭和音楽大学、神奈川工科大学、東海大学、麻布大学、神奈川大学、北陸大学、以上の49名が合格しました。この他にも、私立短期大学10名合格、看護医療系専門学校11名合格、専修・各種学校23名合格、八戸工科学院1名合格、就職においては横浜市職員、東京都特別区職員、警視庁、神奈川県警、八戸広域消防消防官、自衛隊一般曹候補生など公務員23名合格、一般企業29名合格という結果でした。

〔4月〕6日に267名の新生を迎え、第43回入学式が挙行されました。21日〜23日の三日間に渡り、SCクラス全学年合同合宿が小川原湖青年の家に於て行われ、大学受験に向けて今後の学習のあり方を学びました。24日、二三年メデイカルカレッジクラスの生徒が、近隣にある医療系専門学校・大学について知り、地域医療の理解を深めるとい目的で、東北メデイカル学院、八戸看護専門学校、八戸学院大学健康医療学部を見学しました。第二回日学・黒板アート甲子園にて、本校美術コース二年生2チームの作品が入賞しました。

〔5月〕23〜24日、美術コース全学年の校外スケッチ実習が、八戸の蕪島と十和田の奥入瀬溪流とに分かれて実施されました。30日、メデイカルカレッジクラス三年生を対象に、国際医療福祉大学出張講義が行われ、入院患者さんの身体と心についての理解を深めました。

〔6月〕2日〜5日にかけて高校総体が行われました。体操女子団体が第2位を獲得しました。また、美術コース二年生、小山内柚月さんの大会ポスターが優秀賞を受賞しました。10日、助産院を開設している山端澄子氏による看護の出前授業が実施されました。21日、18歳選挙権主催者教育としてテリー東北出前講座が行われました。

〔7月〕16日〜20日にかけて学校行事最大の二高祭が行われ、2日間の一

般公開を含み、大盛況のうち無事終了しました。22日〜23日、毎年恒例の読書合宿が本校にて実施されました。今年、八戸ブックセンターを見学し、充実したグループ活動が行われました。同日1泊2日で生徒16名が青森市にある東北大学浅虫海洋生物学教育センターで臨海実習をしました。裸島潮間帯の生物の観察、キタサンショウウオの受精、発生観察など、充実した2日間でした。25日、厚生労働省主催進路ガイダンスが三年就職希望者を対象に実施され、現在の就職状況について理解し、求人票の見方や自己PRの仕方などを学びました。27日、情報ビジネスコース二年生を対象として、野村證券株式会社出張授業が行われ、就職後のライフコースに必要なお金の試算や資産形成方法について学びました。29日、中学生を対象とした夏の体験入学を開催し、大変多くの中学生や保護者の皆様に参加していただきました。31日から8月6日までの一週間、漫画芸部による初のイラスト展が開催されました。夏の季節語「金魚」をテーマに描いたイラスト展で多くの方にご覧いただきました。

〔8月〕3日〜4日、メデイカルカレッジクラス二年生が、八戸西病院にてインターシップを行いました。4日、情報ビジネスコース一年生が、陸上自衛隊八戸駐屯地にて職業体験を行ってきました。



〔8月〕3日〜4日、メデイカルカレッジクラス二年生が、八戸西病院にてインターシップを行いました。4日、情報ビジネスコース一年生が、陸上自衛隊八戸駐屯地にて職業体験を行ってきました。



てインターシップを行いました。4日、情報ビジネスコース一年生が、陸上自衛隊八戸駐屯地にて職業体験を行ってきました。5日〜9月18日の約1ヵ月半に渡り、八戸市の川縄文館で「発掘された日本列島20017新発見考古速報」展が開催されました。文化庁等主催の大規模で学術的価値の高いイベントで、同庁の指示を受けた川縄文館から、学校単位として本校に対し、展覧会の説明にかかわる高校生スタッフの依頼がありました。募集したところ多数の応募があり、一年生27名、二年生36名、三年生14名、合計77名の生徒が募集に応じてくれました。11日、観光ガイドボランティア「ア」が実施されました。生憎の天気で観光客は少なかったものの、参加した生徒は熱心にガイドを行っていました。5日〜7日にかけてカレッジコース三学年希望者による学習合宿が本校にて行われました。また、7日〜9日にはカレッジコース一、二年生のSCクラス、及び希望者による合同学習合宿が小川原湖青年の家に於て行われました。18日、六ヶ所村エネルギーパーク見学が実施されました。24日、第9回全国理容美容学生技術大会(理美容甲子園)へアデザイン画中学・高校生部の部において美術コース4名が受賞しました。うち3名は優秀賞を受賞し、全国大会に出品されました。30日、校内弁論大会が行われ、一年生の小林蒼夏さんが第一位となり、県高校総合文化祭弁論部門に出場が決まりました。

「ムーヴィングドローイング」の特別授業を行いました。モデルは美術コース生3名で、この授業のために自分達で創作したコンテンツポラードスを踊りました。〔9月〕2日〜3日、16日、みちのく潮風トレイルウォーキングが行われ、種差海岸の潮風トレイルをめぐる、八戸ジオサイトの理解を深めました。9日、青森市で開催された青森県高校英語暗唱弁論大会の創作部門で美術コース三年の才神玲奈さんが見事最優秀賞(第一位)に輝きました。本校では初の快挙です。9〜10日、八戸市民館で行われた第57回三八・上北地区演劇合同発表会で、本校演劇部が見事最優秀賞に輝き、青森県大会に出場することが決定しました。10日、八戸ポータルミュージアム「はっち」にて開催された「国際交流フェスタinはちのへ」で、本校生徒が国際交流活動について発表しました。二高もパネルを展示し、中国・瀋陽工業大学の中国語研修と、今年の3月に実施したオーストラリア異文化体験プログラムについてPRしました。10日、八戸ショッピングセンターラピアにおいて、中学生美術セミナーを実施し、県南の中学生に数多く集まっていたいただきまし

た。23日には、青森市のワ・ラッセでも、美術ゼミナーが実施されました。30日、SCクラス行事、階上岳強歩登山が行われ、往復25キロの道のりにチャレンジしました。帰り道の途中で雨に降られたため、残り7キロはバスに乗り込んで帰ってきましたが、参加生徒たちはクラスメイトや先輩、後輩達と楽しく歩くことができました。同日、八戸プラザホテルにおいて、八戸工大二高附属中学校のプレテストが行われ、50名の小学六年生の皆さんが国語と算数のテストにチャレンジしました。

スラ学院高等学校、千葉学園高等学校、そして本校の華道部員が共同制作した生け花を展示しました。21日、白神山地トレッキングが実施されました。今年度は津軽ダムを眺望したほか、水陸両用バス乗車体験も行われ、充実した内容でした。

森中央学院大学の佐藤淳准教授をお招きし、フアシリテーターは二高生が務めました。事前研修を受けた生徒がグラフィックハーベストティングにも挑戦しました。同日、一年生を対象に、青森県内の大学生約70名が集まり、「大学生による高校生へのキャリアサポート」通称キャリアサポが開催されました。大学生は県の各地域からボランティアで集まり、イベントを盛り上げました。キャリアサポの内容は、グループ内自己紹介、トークタイム、大学生の体験談、大切にしていきたい事を考えるなど、興味深いものでした。27日、12月1日にかけて二年生修学旅行がありました。コースは広島・京都・奈良・大阪を巡り、平和への願いや日本文化・歴史を学びました。

回線を用いて講演をしていただいた縁があります。当日は生徒、保護者、一般の方など合わせて30名が打ち上げの様子を見守りました。打ち上げが成功すると、生徒達はクラッカーを鳴らし、金井宇宙飛行士の似顔絵とミッションマークの入った特製ケーキでお祝いしました。15日、17日にかけて、八戸ポータルミュージアムはつちにおいて、美術コース作品展が行われ、千三百名以上の来場がありました。今年、生徒達が自分の作品を解説するギャラリートークを実施し、集まった保護者や観客は興味深く聞き入っていました。



第19回仙台支部同窓会
H29.6.10 千の庭にて



清水先生と今主事の還暦を祝う会
H29.3.20 八戸パークホテルにて



第40回関東支部同窓会
H29.6.24 お茶の水ホテルジュラクにて



第42回同窓会納涼パーティー
H29.8.12 八戸パークホテルにて

お知らせ

吹奏楽部定期演奏会
平成30年3月21日(水)
開場 十三時三十分
開演 十四時
八戸市公民館にて無料

〈1月〉25日、26日に情報ビジネスコース一、二年生が八幡平リゾートでスキー教室を行いました。

〈10月〉8日、「太宰治の津軽を訪ねて」と題した文学探訪に行ってきました。斜陽館や立佞武多の館などを見学してきました。15日、岩手県陸前高田市の仮設住宅に生徒会と美術コースの生徒が訪問してボランティア活動を行い、美術コース生が描いた絵画作品を寄贈しました。21日、23日まで第38回高総文祭が行われました。美術芸部門では美術コース二年生の加賀明日花さんが最優秀賞、同年小山内柚月さんが優秀賞を受賞し、平成30年度の全国高総文全国大会参加が決まりました。開会式会場となった八戸市公会堂のエントランスホールには、八戸聖ウル

後の地域を想像しながら、どんな大人になりましたか、そのために何が必要かなどを話し合いました。このワークショップは昨年続き、2回目の実施でした。講師には青